

私保連 とくしま



発行：徳島県私立保育園連盟
 発行人：会長 大和 忠広
 〒770-0943
 徳島市中昭和町1丁目2番地
 徳島県立総合福祉センター内
 tel. 088-654-4461
 fax. 088-656-1173
 印刷：グラント印刷(株)



もくじ

徳島県未来創生文化部こども未来局 子育て応援課長挨拶	P2
部会報告	P3
『ブロッコリー、いらんの!』	P5
いただきますを支えて	P6
健康な笑顔を守って看護師さん	P8
徳島県青年保育者連合会	P8
高校ほか、学生の皆さんへ	P10

明神善隣館保育所
 (9面に続く)

御 挨 拶



徳島県こども未来部 子育て応援課長 玉岡あき子

徳島県私立保育園連盟の皆様には、日頃より、本県の子ども・子育て支援行政、とりわけ保育行政の推進に多大な御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和5年における我が国の出生数、合計特殊出生率はともに「過去最低水準」と、少子化の進行に歯止めがかからない状況が続いております。

国においては、少子化対策の強化に向けて策定された「こども未来戦略」の「加速化プラン」において、幼児教育・保育の質の向上を施策に掲げ、「量の拡大」から「質の向上」へと政策の重点を移すこととし、昨年12月には、持続可能で質の高い保育を通じたこどもまんなか社会を実現するため「保育政策の新たな方向性」が示されたところです。

この柱のひとつに「地域のニーズに対応した質の高い保育の確保・充実」が掲げられ、昨今の不適切な保育の事案やこどもをめぐり事故の増加も踏まえて、こどもの育ちを保障するための保育の質の確保・向上とともに「安全性の確保」を図ることとしています。

県においても、本年2月に、徳島県保育事業連合会及び徳島県私立保育園連盟と連携し、安全で安心な保育環境を提供するための知識やスキルの向上を目指し、県内保育関係者の皆様を対象とした「不適切な保育の未然防止に向けた研修会」を実施するなど、保育の「安全性の確保」にも取り組んでいるところです。

今後も、国の動向を注視しながら、市町村との緊密な連携の下、保育人材の確保や保育の「質の向上」にしっかりと取り組み、安全・安心な保育環境の実現に努めて参ります。

徳島県私立保育園連盟の皆様におかれましては、引き続き、こどもの健やかな育ちを支える「児童福祉の専門家」として御活躍いただきますとともに、すべてのこどもが笑顔になれる「こどもまんなかとくしま」の実現に、より一層の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



ワンダーブックの保育用品
世界文化社販売株式会社

〒770-0802 徳島市吉野本町3丁目16番地2
TEL(088)653-7607
FAX(088)653-7874

Gakken**株式会社Gakken SEED徳島営業所**

〒770-0046 徳島市鮎喰町1丁目24番3
TEL: 088-638-0017 FAX: 088-638-0019

部 会 報 告

総 務 部

後藤田英司

総務部は、徳島県私立保育園連盟の事業部門でもあり、保険事業推進の役割を担っているところ、各園の皆様には日頃よりご理解ご協力いただきましてありがとうございます。

11月には、全国事業部長会に出席して、代理店などを経て各園に至る保険取扱経路の可視化推進等について議論を共有しました。

ご案内させていただいている各種保険等には、子どもたちのみならず、保護者の皆様や、職員各位の安心に資するさまざまな仕組みが用意されています。

既にお手元に届いている事と承知しますが、ご検討の程よろしくお願い致します。

12月には、部会を開催して、保険事業にとどまらず、加盟手順をはじめとした、現在および将来の連盟の組織運営に有用な諸手順や諸規定等について幅広く協議しました。

今後も時宜を得た議論を積み重ねていきたいと考えています。

各園ともに、まもなく新年度を迎えようという繁忙期に入るにあたり、皆様には体調に充分留意され、ご活躍なされますよう祈念致します。

(めだか保育園)

調 査 部

原田真三子

令和6年度の調査部会の活動報告をさせていただきます。

昨年度より取り組みを行っていました「ICTの導入効果」「少子化などによる定員割れ」「調理員の配置基準」をテーマにアンケートを実施しました。たくさんの園から回答があり、集計・分析にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。

さまざまな意見の中から、ICTの活用については、情報管理が慣れてくると作業の効率化へと繋がる反面、文章化する力が弱くなってきたという意見がありました。

効率化を重視しながらも、子どもたちと向き合い保育することについて改めて考えさせられました。少子化については、園の情報発信をしながら、地域を巻き込んだ子育てを踏まえ、少子化が進む中ではありますが、子どもたちがいきいきと生活できるための役割を担っていることを痛感しました。調理員の配置基準については、安心・安全に給食を提供するために細かな配慮が必要であり、配置基準以上の職員を雇用しているとの結果となりました。

部会では、それぞれのテーマに沿った意見交換を行いながら、活発な話し合いの場となり、今年度は、部会を3回開催できました。また、他園の特徴ある保育や施設環境を見学させていただき、子どもたちがのびのびと遊ぶ姿に出会うことができました。

今後も子どもたちの豊かな心を育てていくために、よりよい保育・教育環境の維持に繋がるような調査活動を進めていきたいと思っております。

(久勝かもめこども園)



保育研修部

黒田 信雄

11月9日、施設見学をうずしお保育園を会場に研修部会を開きました。園として大事にしているものを時代の流れに惑わされる事なく、職員の皆さんと施設長先生が一丸となって保育に取り組んでいる様子が伝わってきました。部会では、夏の職員研修会のフィードバックをし、年明けの研修会の役割分担、情報交換をしました。

この冊子が皆さんのところに届く頃には、終わっていますが、2月10日に昨年度に引き続いて香川大学教授の松井剛太先生をお招きして、「五歳児健診の現状と課題」というテーマで職員研修会を実施いたしました。就学前の子ども達と就学後の育ちを切れ間なく繋ぐという点で必要な取り組みであります。有意義な研修であったと考えております。

3月8日には新任職員を対象にした研修会を予定しています。良き学びの時がもてます事を期待しています。

引き続き加盟園の質向上を目指して部員協力し合って取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

(光の子保育園)

広 報 部

田中 美彦

広報部の活動報告をさせていただきます。

この度は「私保連とくしま43号」の発行に際しまして、たくさんの方々よりご尽力を賜りありがとうございました。徳島県こども未来部子育て応援課長玉岡様をはじめ、徳島文理大学短期大学部保育科准教授山越先生、その他、各園の取り組みや保育現場、各関連機関のお知らせなどをお伝えすることができましたことを感謝いたします。

広報部会につきましては5月の定例会で第一回を、第二回は9月に部会を開催し、「私保連とくしま42号」の原稿検討会に参加した部員で行い発行することができました。

また、2025年カレンダーの発行に際しましては、各園から子ども達の楽しい作品の写真をたくさん提供していただきありがとうございました。とても上手に仕上がっている作品、ほのぼのとした作品等、それぞれに個性あふれる作品に情景が浮かんで、見ていて心弾む作品が多く寄せられました。全部で13園から提供があり、それぞれ掲載させていただきました。すべての写真を掲載することはできませんでしたが、今後ともご協力いただきますようお願いいたします。そして、会員の皆様には、広くカレンダーをご活用いただきたいと思います。

これからも広報紙を通して日々の保育に役立てていただけるような情報を発信していきたいと思っています。つきましては、広報活動に対するご意見、ご要望等ございましたら広報部までお寄せくださいますようお願いいたします。

(みのり認定こども園)

**幼児の豊かな生活環境をめざす
徳島チャイルド社**電話 **088-674-6050**
FAX **088-674-8336**

〒779-3234 名西郡石井町石井字白鳥230

**子どもにやさしい地球を残そう
ひかりのくに徳島有限会社**〒779-3404 徳島県吉野川市山川町川田869-4
TEL 0883(42)2220
FAX 0883(42)6300
〒770-0035 徳島市南佐古5番町2-37
TEL 088(652)0350
FAX 088(655)9066



徳島文理大学短期大学部 保育科 山越 明

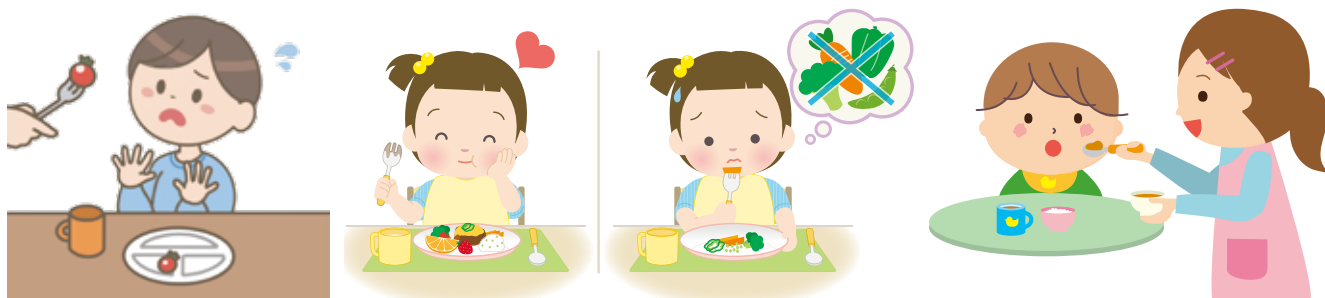
「ブロッコリー、いらんの!」「からだ元気にしてくれるので食べなさい!」「いらんの〜っ!」「食べなあかんよ〜っ!」孫と娘の戦う声が響きます。我が家の朝ご飯には必ずキャベツ・レタス・人参・ブロッコリー・ミニトマトで作った野菜サラダが出てきます。6歳になる孫はキャベツ・人参の千切りとレタスはさっと食べるのですが、ブロッコリーとトマトは苦手なようです。孫に話を聞くと「ブロッコリーはバサバサしていてイヤ。ミニトマトは汁が出るのでイヤ。」と理由ははっきりしています。ブロッコリーはみじん切りにしてツナやジャガイモとなどで和えた料理は「おいしい!」とお代わりをして食べていますし、トマトもピザやハンバーガーに入っている「おいしい!」と食べています。「食材が嫌なわけではないので、気にしないでいいと思うよ」と娘には言うのですが、母親の思いからすると「食材が嫌いなわけでないのなら食べられるはず」という視点から離れることができず、親子の戦いが続いています。ヒトは、手に入る食材をもとに調理に工夫を凝らし様々な食文化を築き上げてきました。食材の持つ本来の味や食感は苦手でも調理された料理の中に入っている食材を食べられれば、それでいいと思うのですが…。

食事は五感すべてを使って営む活動です。見た目、匂い、味、食感、そして食べる時に出る音、それらの総合評価で、好き嫌いが決まります。例えば『山芋』。私と末娘はとろろにしてわさび醤油で食べるのが大好きですが、妻と2人の娘は全く食べることができず、煮物や味噌汁の具として食しています。考えてみると妻や2人の娘は卵かけご飯や納豆も食べません。単にネバネバした食感が嫌なようです。でも孫たちは納豆が大好きなのが不思議です。

赤ちゃんの『嗅覚』は、母親の母乳と他の親の母乳の嗅ぎ分けができるくらい大人と比べてとても鋭いそうです。視力が弱い分、嗅覚で危険なものを察知し、リスクから逃れられるためと言われています。一方、『味覚』は食経験により様々な味を知り、食べられるものが多くなっていくことにより発達していき、そのピークは3〜4歳で、10歳頃までの味の記憶がその後の味覚の基礎となると言われています。離乳食をはじめた頃の赤ちゃんは、おかゆは食べていたのに、他の食材を入れるようになると、おかゆの味との違いに気づき、食材によっては舌で押し出してなかなか食べようとしないことがあります。未経験の味に出会い本能的に危険から回避する行動と考えることができます。歯が生え始め、刻み食になると、味覚の好き嫌いばかりでなく咀嚼力や嚥下力も影響してきます。

偏食は感覚刺激と経験による記憶に起因するものです。大人になると嗜好が安定しているので意に沿わない物は最初から食卓に並ぶことは少なくなります。しかし、子どもの場合はこれから体が出来上がる時期なので栄養面を考えるといろいろな食材の味に慣れていく必要があります。偏食がある子どもは感覚刺激に対して過敏で慎重、とも考えられます。『赤い色の食べ物が苦手』など視覚刺激による場合は一緒に調理することで元の食材との関係が分かり、食べようとする意欲に繋がります。聴覚過敏の子どもの中には『咀嚼する音が気になる』場合があります。その場合は、硬い物を細かく刻んだり柔らかくすると楽になります。『辛味、苦味、酸味』が苦手、『熱い物、冷たい物』が苦手、『硬い物、粘りがある物』が苦手な場合は触覚の過敏性によりますから、刺激の弱い物から時間をかけて徐々に強くして慣れていく必要があります。

保育所では栄養バランスを考えた食事を準備していると思います。子どもたちにとって家庭食とは違った食事をする経験は、子どもの食(味覚)の成長に大きく寄与していると思います。偏食気味の子への食事の支援は、保育者にとっては手のかかることもあるかと思いますが、「この子は今、この味を経験しているのだな!がんばれ!」と笑顔で温かく応援していただければと思います。





いただきますを支えて



しらゆり保育園 管理栄養士 坂東 優衣



しらゆり保育園では、給食を保育の柱の1つと考えています。私たちは、給食の配膳や食事の様子を見て声をかけたり、会話をしたり、子どもたちとのコミュニケーションを大切にしています。そうすることで、子どもたちとの信頼関係が生まれ、食べられなかった野菜も1口頑張ってみようと挑戦する姿が見られるようになりました。

園では、子どもたちが口にするもの全てにこだわり、厳選された食材や調味料を使用しています。園庭では、きゅうりやじゃがいも、大根など季節に合わせた野菜を育て、夏には梅シロップ作りも行っています。収穫した野菜は、その場で採れたての味を楽しんだり、できるだけその日の給食に使ったりしています。また、「ポテトにしてー！」など、子どもたちからのリクエストに応えたりもします。

食育活動のメインとなるのが、1年を通してのお米作りです。毎年地域の方が、稲の苗を提供してくださいます。田植えから稲刈り、精米まで全て子どもたちの手作業です。精米を終えると、いよいよおにぎり作り。まずは、お米とぎです。「まぜまぜぎゅっ」練習してきた様子の子どもたち、みんなのかけ声がそろっています。最後は、土鍋でご飯を炊きます。炊けるまでの間、田植えからの思い出を振り返りながら待ちました。「いい匂いしてきたなあ」「おにぎりはハートの形にする！」と炊きあがり待ち遠しい子どもたち。炊けたご飯を見た時の子どもたちからは、達成感に満ち溢れた笑顔が見られました。生産から消費までの全てを体験したお米作りは、子どもたちにとって、貴重な経験になったことと思います。

園での給食を通して、食事の時間が楽しいと感じられるような環境づくりや食育をこれからも大切にしていきたいと思います。そして、子どもたち一人一人の成長や笑顔を「食」で支えていきたいです。



もみすり



田植え



大根

フレーベル館

保育用品／キンダーブック／児童図書

株式会社フレーベル館 徳島支店

〒770-8007

徳島県徳島市新浜本町2-3-50 坂東新浜ビル3号室

TEL 088-663-6338 FAX 088-663-3396



こども環境の未来をつくる



ショクエイ

徳島店

徳島市末広1丁目4-14

TEL 088-626-2110

FAX 088-626-2416

〔全私保連推奨〕各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人
全国私立保育連盟



東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」
「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大
リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費
用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人
への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一
の場合の育児費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品
と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

24時間のおケガ等からお守りにすることに加え、学校からの貸出タブレットを
含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的
な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店

有限会社ゼンポ

TEL : 03-3865-3881
FAX : 03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社：公務二部 文教公務室 TEL : 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の
概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず
「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）



きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・追加料金一切なし

すべての機能使い放題／

月額 5,500円(税込)のみ

無料体験実施中! →

お申し込みは
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に

きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886



いいキッズ 犬伏 則子 (文 佐藤睦子)

いいキッズには頼れる犬伏看護師がいます。いいキッズに勤務して16年になります。自分のお子様が保育所へ入所した春から勤務してくださっています。長年勤務している犬伏看護師に、「何を大切に毎日の保育をしているのか」と改めて尋ねてみました。「常にこどもの安全安心を考えて環境整備を行いながら、こどもの動きに気を配り保育している」とのことでした。

いいキッズの園児は、0歳・1歳児の乳児なので、自分から体調を知らせることが難しい年齢です。そのこどもたちの様子など、一人ひとりの動きや体調をよく把握してくれています。また、担任からの相談やこどもが怪我をした時、的確なアドバイスや処置をしてくれます。爪が伸びて割れかけた時も丁寧に切ってくれます。いつもこどもや保育士が頼りにしています。おむつかぶれや皮膚疾患のあるこどもへのスキンケアや園の健康診断の時にも大活躍です。年2回の健診の際には園医に付添い、こどもの様子を伝えて、園医からの専門的な説明も分かりやすく保育士に教えてくれます。

次々と変化する医療の新しい知識をどこで習得しているのか確認すると、日々のニュースをチェックしており、公衆衛生で分からない事や忘れかけた知識は本やインターネット等で調べて学びを深めてくれているそうです。

保育士と共に、毎日の保育に関わり、一緒にこどもたちと生活する中で、こどもが健康で楽しい雰囲気の中で過ごせるように願いながら、明るい声かけで日々関わってくれています。そんな犬伏看護師は、当園になくてはならない大切な存在です。



徳島県青年保育者連合会 令和6年度 青年会議活動報告

徳島県青年保育者連合会 会長 大和 友就
青年会議 部長 大石 智弘
日保協担当 部長 盛 利彦

今年はインフルエンザが大流行しています。皆様の園におかれましても、感染症対策・行事や活動の自粛等、子どもたちにも様々な影響が出ているかと思われます。

しかしながら、登園して来る子どもたちの、元気いっぱいの声や笑顔が癒しとなり“がんばろう”と思う気持ちが湧いてきます。

さて、今年度の当会の活動報告として、5月に総会を、グランドパレス徳島において実施し、第1号議案から第5号議案(2023年度事業報告、収支決算、監査報告、2024年度事業計画、収支予算、その他会員状況)について、採択されました。

また、7月24日にグランドパレス徳島において、「保育園・認定こども園の会計処理について」株式会社チャイルド社様を講師に研修会を開催しました。

全国大会

令和6年9月5・6日に「第43回全国私立保育園連盟青年会議東京大会～CORE～子どもたち、ど真ん中」が開催されました。多数の先生方に出席して頂き、大変ありがとうございました。

また、「第44回私立保育園連盟青年会議奄美大会」が令和7年10月23・24日、において開催されます。皆様方と共に参加できることを願っております。



(1面から続く)

異年齢交流 ～友達と関わり合う豊かな体験の中で～

副所長 亘 陽子

明神善隣館保育所は、昭和3年に浄土真宗本願寺派の住職が地域の人々の要望を受け通年性託児所として開所し、今年で97年になります。

一人一人が自分の居場所を見つけ、共に育ち合う仲間づくりをめざして異年齢交流を20年近く続けています。異年齢交流では、各コーナーを設定しています。

ままごとコーナーでは、料理作りをしたり、赤ちゃんのお世話をしたり、ゆったりと遊ぶ姿が見られます。玩具や場所の取り合いなどはありますが、保育者が仲立ちとなり互いの思いを聞き、伝え合う中で、少しずつ自分の言葉で思いを表現できるようになってきています。

お店屋さんコーナーでは、自然と売り手が年長児、買い手が年少児になることが多く、役割がはっきりする中で責任感をもって遊びが広がっています。年長児が年少児に優しくする姿もあり、同年齢集団では体験できない関わりが見られています。その他のコーナーとして、運動コーナーやゲームコーナー、ゆったりとくつろげる休息スペース（ドリームハウス）などがあります。

各コーナーには保育者が側について遊びを見守り仲立ちとなりながら互いの思いを聞くようにしています。保育者間では、環境の構成や援助の仕方を共通理解し、次への異年齢交流へとつなげるようにしています。子どもたちのエピソードを聞く中で、普段見られない姿を知ることができ、子どもたちを決めつけて見ていた部分があることを反省し、子どもへのかかわり方や言動を見直す機会となっています。

一人一人が十分に遊び込み認められることは、自分の居場所を見つけ「楽しい」「また遊びたい」という意欲につながり、達成感を味わうことで自己肯定感を高めることにもつながります。これからも自己発揮できる居場所をつくり、一人一人の気持ちに寄り添いながら保育所全体で共に育ち合う仲間づくりをめざして保育に取り組んでいきたいです。

(明神善隣館保育所)



高校ほか、学生の皆さんへ 保育園で働きますか？

フレッシュ新任保育士さんから

つくし保育所 大黒 夢菜

私は、自分が現在働いている保育所と同じ町で生まれ育ちました。そして、生後6か月から本保育所に通っていました。先生方がとても優しく、いつも素敵なパワーを持っていて、保育所が大好きで毎日楽しくて仕方ありませんでした。運動会やクリスマス会、遊山箱に詰めたお弁当を食べた遠足など、楽しい行事がいっぱいで、あっという間に修了式を迎えたことを、今でも覚えています。そして、幼い頃から年下の子と関わることが好きで、いつか子どもと関わる仕事に就きたいと思うようになり、保育士になることが将来の夢になりました。

久しぶりに大学の実習でお世話になる事となり、本保育所で私が通っていた時の先生方がたくさんいて、懐かしさでいっぱいになりました。昨春に大学を卒業し、4月から本保育所で夢であった保育士として働き始めました。保育士は、人格形成の基礎を築く乳幼児期の子どもと関わることのできる数少ない職業です。子どもを好きなだけでは働まらないというイメージがあるかもしれませんが、まず、子どもが好きでないと働まらない職業でもあると思います。

保護者や一人ひとりの子どもへの関わり方、日中の活動、日誌や月案の書き方等、どれを取っても悩みや反省が日々尽きることはありません。その反面、トイレで排泄できるようになった、自分で衣服の着脱ができるようになった、ご飯をスプーンやフォークを使って食べられるようになった、苦手なものを食べられるようになった、おもちゃを「貸して」と言えるようになった、「先生」と呼んでくれた、といった子どもたちの、昨日はできなかった事ができるようになる、日々の成長を見届けていられる、そんな一つひとつのことがら私にとって毎日の喜びであり、エネルギーでもあります。子どもたちと一緒に「できた」という喜びを感じ合える素敵な職業だと実感しています。

毎日色々な初めてを経験している、真っ直ぐな子どもたちから学ぶことも多く、パワーをもらっています。まだまだこれからも、学んでいくことがたくさんありますが、明るい笑顔を大切に、子どもたちと一緒に成長していけるように頑張っていきたいと思います。



—編集後記—

草木の新芽が萌え出ずる頃となりました。今年度は、全国的にインフルエンザ、コロナ等の感染症も流行しましたが、保護者や地域の方を交えての行事も行えることが多くなり、園の活気も戻りつつあります。しかし、少子化傾向にある現代でも、「保育士不足問題」が常に話題になり、人材確保に向けた取り組みが重要課題とされています。「待機児童問題」も待機児童数が減少傾向になりつつありますが、保育士不足により待機児童も解消できない状況でもあります。

このような保育業界の問題を解決するために、園単位でできることを着実に実行していくことが重要です。保育士の労働環境の改善やチームで働きやすい環境づくり、保護者との円滑なコミュニケーションを図る仕組みを作る等、工夫をして解消の方向に進めていきましょう。

今回も皆様のご協力で無事刊行することができました。この度も、「私保連とくしま43号」の発行に当たり原稿や写真、執筆のご協力を頂きましてありがとうございました。今後も、様々なご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

(鴨島ひかり乳幼児保育園 宮本 千秋)